巻頭特集

伊賀上野城

白鳳城と呼ばれる白亜三層の復興天守

市民の憩いの場である上野公園。一帯には俳聖殿、芭蕉翁記念館、伊賀流忍者博物館などが点在しており、観光客からの人気も高い。なかでも賑わいを見せるのが、白漆喰塗で仕上げられた三層の天守が美しい伊賀上野城で、日本一〇〇名城に選ばれている。

筒井定次が築いた城を藤堂高虎が拡張し整備

上野盆地のほぼ中央にある丘陵の上には、かつて平清盛ゆかりの平楽寺があった。

天正九（一五八一）年の織田信長の伊賀攻めにより、伊賀勢の拠点の一つになっていた寺は灰燼に帰す。天正十三（一五八五）年、伊賀の国を領した筒井定次が、寺跡に新しく城郭を築いた。これが伊賀上野城である。本丸には三層の天守があり、北に大手を構えた。

慶長十三（一六〇八）年、定次は失政を理由に改易。その後、徳川家康の命を受けて、藤堂高虎が伊賀・伊勢の城主として伊予今治城から移ってきた。

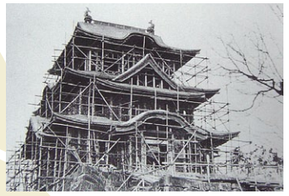
定次の城は東の脅威から大坂を守る形をとっていたのに対して、高虎は西の豊臣方との決戦に備え、大改修を行っていく。本丸を西に拡張したうえ、広大な高石垣をめぐらし、大手を南に入れ替えた。

新たに五層の天守閣が建設されたが、完成間近の慶長十七（一六一二）年九月二日の大暴風で倒壊してしまう。藤堂藩の記録『宗国史』に、定次が築いた天守は寛永十（一六三三）年に倒壊したと記されており、先の大暴風に耐えたことになる。

築城の名手として知られる高虎らの尽力で愛間亭や萬歳館ができ、さらに当地出身の政治家、川崎克が天守閣再建に乗り出す。資金として自らが所蔵していた古美術品を売却。熊野の山林家からの木材提供など、多くの支援者の協力もあり、約三年の歳月をかけて、昭和十（一九三五）年十月十八日に落成した。

福田さんによれば、独自の設計の天守閣だが、川崎は木造建築にこだわったという。さらに「攻防作戦の城は亡ぶる時もあるも、産業の城は人類生活のあらん限り不滅である」を建設の根本信念とし、完成したこの城を市の産業陳列館として「伊賀文化産業城」と名付けた。

「私財を投じるなど、郷里に尽くした篤志家たちによって、現在の上野公園があることを、私たちは忘れないでいたいですね」と福田さんは話す。



復興再建中の伊賀上野城

天守閣は昭和60（1985）年、伊賀市有形文化財に指定された。その外観で特徴的なのが、さまざまな形状の破風。入母屋破風、千鳥破風、切妻破風、唐破風と、4種の破風が壁面を美しく彩っている

藤堂家ゆかりの品々や著名人による天井色紙

「白鳳城」の美称にふさわしい優美な姿の伊賀上野城は、展示品も充実しており、天守閣内は一般に広く公開されている。石段を登ると、青銅製の鯱が出迎えてくれる。入り口に掲げられた扁額「鳳凰雙飛」は川崎克の書。

一階は天井が高い。使われている木材は太く、磨き丸太の柱もある。藤堂高虎が豊臣秀吉から拝領したと伝えられている「唐冠形兜」や、十一代藩主の藤堂高猷が着用した兜など、甲冑や武具が並ぶ。レプリカではなく実物で、多くが寄贈されたものという。

二階には、歴代藩主の書画をはじめとする藤堂家関係史料のほか、藤堂家の家紋「藤堂蔦」が入った什器など、武家調度品類が見られる。松尾芭蕉の旅笠も展示されている。

急な階段を上がった最上階の三階は折上格天井になっており、天守閣復興を祝う著名人から寄贈された色紙が飾られている。横山大観、川合玉堂、高浜虚子、徳富蘇峰、近衛文麿など四十六枚の書画は見応え十分だ。徳川宗家の十六代当主、徳川家達の揮毫「景星曜天」もある。欄間は弓と矢で作られているなど、細部の意匠も凝っている。

伊賀上野城は一月一日から開館。初詣がてらに毎年訪れ、天守からの眺めを楽しむ市民もいるそうで、正月三が日は多くの登閣者で賑わう。

公益財団法人
伊賀文化産業協会 専務理事
福田 和幸さん

しからぬことに、伊賀上野城を管理運営する、公益財団法人伊賀文化産業協会の福田和幸専務理事に疑問を投げかけた。

「その点については、いろいろな説が唱えられていますが、築城の名手というのは単に天守などの建築（作事）だけではなく、城としての基盤設計（縄張）に長けていたことを指すのだと考えます。おそらく五層にもなる天守閣というのは、堅牢さよりも、豊臣方に向けての見映えを優先したのでは」との回答が返ってきた。

以後、天守閣は再建されず、城全体も未完成のまま、幕末を迎えた。そして、伊賀上野城は明治六（一八七三）年の「全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方（廃城令）」により、櫓などの建造物の多くが取り壊された。

伊賀地域の産業振興の拠点として天守を再建

廃城後、伊賀上野城跡は放置されたままで、明治十九（一八八六）年に公園委員会が組織されたが、整備が進まなかった。この惨状を見かねた地元の実業家、田中善助らが明治二十八（一八九五）年頃、上野町長に公園整備を建言し、公園として再生させた。大正八（一九一九）年には、公園の一画に公会堂が建設される。外国糖の輸入で財を築いた伊賀出身の実業家、増田嘉兵衛の寄付によるものだった。

昭和に入り、田中善助町長

私財を投じて伊賀上野城を再建した川崎克。明治13（1880）年12月28日、上野車坂町に生まれた。大正4（1915）年に衆議院議員に初当選し、政治生活に入る。11回当選。従四位勲二等。昭和24（1949）年2月3日、70歳で没する

❶高虎が秀吉から拝領した唐冠形兜（とうかんなりかぶと）。のちに高虎から家臣の藤堂玄蕃良重が受領し、大坂夏の陣で着用したと伝わる。三重県指定文化財 ❷1m四方の色紙46枚がはめ込まれた、天守閣3階の天井 ❸藤堂高虎が本丸の西に築いた石垣。角をたたいて平たく削るなど、石を加工してから積み上げる「打込はぎ」の技法が用いられている。高さは約30mで、大坂城の高石垣とともに日本で1、2を競う

information

伊賀上野城

［開館時間］9:00～17:00
（入館は16:45まで）
［休館日］12月29日～31日
［登閣料］大人500円、小人200円
［所在地］伊賀市上野丸之内106
［問い合わせ］0595-21-3148

文／長屋整徳　写真／編集室　デザイン／chica